



1986年ごろの太田渡船場の石畳

ふるさと 資料紹介

= ④8 =

史料と地名からみた
地区の歴史③

太田 (三)

江戸時代の太田村は、この地域の政治・交通の中心でしたが、度重なる水害との戦いも絶えませんでした。一六〇一年から一八八〇年の間に、木曾川のはんらんにより市域

が洪水となったのは九七回、約三年に一回となります。

なかでも元文・明和・天明・寛政・嘉永の洪水は、太田宿のほとんどが浸水し、床上三尺（九〇センチ）、六尺という記録もあります。多くの家や人が流されてしまったようです。

度重なる洪水により水流や

地形が変化したため、渡しの場合上流の古井村まで移動しました。

今回は、次の方から貴重な資料を寄贈いただきました。ありがとうございます。

○戦時中のビラ 二点
(平成七年四、五月分)

○古田哲郎さん／西町

○船のカイなど 一五点

○飯田護男さん／下米田町

○珪化木 二点

○山田昭三さん／伊深町

○石臼など 二点

○岩田昭さん／蜂屋町

計画中の博物館建設のため、現在いろいろな資料を集めています。文化課（文化会館内 ☎内 408）まで情報をお寄せください。